水野日向守殿堀丹後守殿へ早速南都出張参るへき由の
上意にて則若江の旨風聞に付南都へ働不及直に
郡山し筒井五町目より所々へ打出されしより四里南の當麻今井
村より八村ニ而とく放所と放火いたしへしと彼方の道筋在々放
火致し候所今井よりハ元夫多部より一向坊を取られし由
多部之一族櫛羅寄て催し今井之西口に打出て鉄炮を打
かけしかは乱に押入不残しくされけり乾隅の方には
る表て通り同盛纔に川少かる道筋に右済村より方々と放火
し擬まし高取の城には本多因幡守殿三万石にて居られしか領知
在城なくして又宇智郡二見より一所には松倉豊後守殿一万石
にて候処大坂より大和焼働に打出候由注進聞付早速馬上乃の
六十騎余にて二里打出五條にて西三在松より所々具足櫃
に腰をかけ居られけれはそれより高向に高取五條へ使者を以
注進入候ハ大坂より焼働によって打出候由に付罷出候へくと存候
押出候処各存寄て御出候て了簡合とおもはれしと有へ是ハ定て大坂より
打出候人数大軍にて二万とも放火して高取五條へと押寄
るへきのよし聞及候へ共出不申してハ後詰あれとて豊後守殿ハ
勝之にて神妙なりと出張るにて人数とあまた了むしてに
出候事は只少勢故さもて諸りハ大家に可成都とて以後
諸勢くして早速掛向ひ討留へきと馬を足をやめ急に
一所ニ早開坐し方へ引取し由注進聞以る直ニ斥候へ掛り開坐へ
出合了簡覚悟にて一騎掛りに急れ以後をも待を往
ト成大坂人数ハ国分へ引取候に付而国の境まで追かけ
草臥候者ともを三四人と討取生捕とも一数へ渡し依之へ